

2022年 11月 30日
日本商工会議所
東京商工会議所

2024年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する 考え方について

[採用選考ルールの必要性]

- 採用選考ルールに関しては、一部にルールで定めた日程の前から採用に係る活動が行われているなど、形骸化の指摘もあるが、就職・採用活動の早期化・長期化の抑止により、学生の学修時間の確保に資するものであり、また、採用に携わるマンパワーに限られる中小企業にとっても「予定の立てやすさ」といった面で有益である。
- 採用・就職に関する環境や意識の変化をとらえつつ、官民を挙げて幅広く周知していくとともに、企業においては、「将来を担う学生の学修時間の確保」という本ルールの主旨を十分に理解し、遵守することが求められる。

[採用選考ルールの策定主体]

- 関係省庁連絡会議で検討し、策定することが望ましい。

[広報・選考活動の開始時期]

- 現行の日程は、学生の学修時間の確保という本旨や、大学の学事日程、企業における採用選考活動に照らして、特段の問題は生じていないと認識している。

[インターンシップに対する考え]

- 約7割の学生がインターンシップに参加しているなど、インターンシップは学生に広く浸透しており、多くの学生が業界・業種や仕事内容、会社の雰囲気に対する理解促進等の効果を実感している。
- 一方、企業にとってインターンシップは、学生の就労意識の向上やミスマッチによる離職防止への効果が期待されるとともに、中小企業にとっては自社の魅力を学生に伝える貴重な機会となり得るものである。
- 2023年度より一定の基準に準拠するインターンシップで取得した学生情報を採用選考活動に活用できることになるが、政府は学生の就業体験という本旨に即した新たな類型のインターンシップについて普及促進を図るとともに、マンパワーやノウハウに限られる中小企業に対して、プログラムの企画・立案に関する助言・指導や、大学との連携・交流機会の提供等の支援策を講じていただきたい。

[その他]

- 2025年度（2026年3月）の卒業・修了予定者の就職・採用活動日程については、「専門性の高い人材に関する採用日程の弾力化を含め、検討を速やかに進める。」としているが、現行のルールに新たな例外を設けることは、さらなるルールの形骸化を招く恐れがあり、中小企業の採用選考活動に混乱が生じることが懸念される。「専門性の高い人材」の定義の明確化を含め、大学や経済団体との丁寧な議論により慎重に検討を進めるべきである。
- 当所は、採用選考ルールの意義や重要性に鑑み、全国の商工会議所及び会員企業に対して本ルールを幅広く周知していく。

以上